

自律・尊重・協働～「問寒別学校」としての取組～

幌延町立問寒別小中学校

1. 研究主題について

「自ら学びを創造する子の育成」
～個別最適な学び・協働的な学びを通して～

本校では、学習に向かう児童生徒の学習状況を適切に把握し、個に応じた必要な支援を重ねている。小学校では、「自力タイム」を、課題や見通しを児童に明確にもたせ、主体的な取組としている。中学校でも、生徒と教師が単元計画を共有することにより、生徒に単元のゴールまでの道筋（解決方法）の見通しを持たせ、自分に合った解決方法で取り組む学習活動の充実を図っている。

2. オンライン学習など ICT 活用状況

「新しい学びの学びの授業力向上推進事業」
幌延町

推進教員配置校 1 幌延町立幌延小学校

推進教員配置校 2 豊富町立豊富小学校

連携校 幌延町立問寒別小学校

＜授業力向上や授業改善上の課題＞

- 「個別の学び」の時間と「協働での学び」がそれぞれ保証されるように、児童一人一人、集団の、的確な実態把握に基づく支援。
- 問題解決の思考の過程（自分の考え）が表現できるよう指導し学び合いにつなげていくことで間接指導をさらに充実させる。
- 「学習課題」「まとめ」「振り返り」のある学びの積み上げ。
- どのような力を子どもたちに身に付けさせたいのかを明確にし、活用場面を考えた効果的な ICT の活用。

＜R5 実践＞

- ・年5回の来校（1日日程）。主に授業における効果的な ICT の活用に係り、担任と複数体制での授業づくりを実践。
- ・令和の日本型教育に向けての授業づくりや ICT を活用した授業づくりにかかわる通信の発行。
- ・タブレットで活用できる様々なアプリについての情報提供
- ・小2国語科「さけが大きくなるまで」さけクイズづくりに活用。「Kahoot!」使用。小5算数科「図形の角を調べよう」三角形の内角の和を調べる学習場面で活用。等々

3. 小中協働による授業づくり

初任教員の授業実践力向上に向けた全校によるサポートと学び合い

本校の新卒（2年目）は中学校国語教諭である。研究部と連携し、昨年度に引き続き、2学期研修の大きな柱を「新卒教員の研究授業づくり」とした。11月の学校経営指導訪問は、指導主事に、全学級を代表し学校研究授業として中学校国語科の授業参観をお願いした。学校研究授業に向け、中学校部会を中心に、研究部、そして本来学校運営組織にはない有志による「国語部会」が立ち上がりその機能を発揮させながら授業実践力向上に向け取組を進めてきた。指導案検討はもちろん、新卒教員による模擬授業による学び合い等、全校でサポートを行った。

4. 児生会

小中の協働体制、特に「児生会」に関わって

今年度は、児童会・生徒会の連携を積極的に進めながら、「児生会」移行への可能性を探る1年としている。何ができるのかなど在り方を検討し、活動できる場や機会の計画的な確保が必要」としてスタート。今年度、児童会・生徒会が連携して行った（行う）活動は「全校朝会」「一年生を迎える会」「全校給食」「運動会」「学芸会」「小中合同集会」。運動会では、小中の子どもたちの関わりやテーマ設定の手順、どの子にも分かりやすいテーマ（文言）、テーマを意識した取組など「つながる」運動会となった。



写真は2023.11.18 小中合同集会として「全校レク」から